

問1 北海道の産業構造の特徴について、市町村別の就業者割合をまとめた資料によると、道東や道南の広い範囲を含め、多くの地域で共通して高い水準にある産業分類があります。商業や観光業、医療・福祉といったサービス業を含むこの産業分類として、正しい名称を選びなさい。（2026年 三重公立入試 類似）

1. 農林水産業を主体とする第一次産業 2. 製造業や建設業を主体とする第二次産業 3. 商業やサービス業を主体とする第三次産業 4. 先端技術や情報通信を主体とする第四次産業

問2 北海道の農業は、広大な土地を活かした大規模経営が特徴です。農家一戸あたりの耕地面積が全国平均と比べて極めて大きい背景や、その生産体制に関する説明として正しいものはどれですか。（2016年 京都公立入試 類似）

1. 明治時代以降の開拓により一区画の農地が広く設定されたため、大型機械による効率的な生産が進んだ 2. 山がちで複雑な地形が多いため、小さな耕地を多数の農家で分け合い、人力による丁寧な管理が行われている 3. 農業産出額を増やすために、狭い土地に多くの肥料や労働力を投入する集約的な農業が発達した 4. 冷害を避けるために、ビニールハウスなどの施設を小規模な土地に密集させて栽培する方法が普及した

問3 北海道の各地域における就業者の状況について述べた文として、統計的な背景から判断して最も適切なものはどれですか。なお、北海道では道東や道南の広い範囲において、特定の産業分類の数値が高い傾向にあります。（2026年 三重公立入試 類似）

1. 農業産出額が全国トップであるため、多くの市町村で第一次産業の就業者数が全体の過半数を占めている。 2. 札幌市などの大都市圏のみに商業が集中しているため、地方部では第二次産業の就業者が最も多い。 3. 自然景観を活かした観光業や地域のサービス業が発達しているため、多くの市町村で第三次産業の就業者が高い割合を占めている。 4. 大規模な工業団地の整備が進んだ結果、道内全域で製造業に従事する第二次産業の割合が第三次産業を上回っている。

問4 日本最大の面積を持ち、約5.1万ヘクタールに及ぶ大規模な水稲の作付面積を誇るなど、広大な土地を活かした農業が盛んな地域はどこか、次の中から選びなさい。（2022年 愛知公立入試 類似）

1. 北海道 2. 岩手県 3. 沖縄県 4. 神奈川県

問5 日本の乳牛飼育において、飲用として出荷される牛乳の生産地が、千葉県、神奈川県、愛知県といった大都市の周辺に多く見られる理由として、最も適切な説明はどれですか。（2022年 埼玉県公立入試 類似）

1. 飲用牛乳は加工品に比べて製品の鮮度を保つことが重視されるため、大消費地に近接した地域で生産されている。 2. 大都市の周辺は北海道に比べて土地代が安く、乳牛を放牧するための広大な土地を確保しやすい環境にある。 3. 飲用牛乳は加工用生乳に比べて重量が軽く、輸送コストがほとんどかからないため、あえて都市部で生産されている。 4. 法律によって、飲用牛乳は消費地と同じ地方自治体の中で生産・処理しなければならないと定められている。

問6 北海道の知床半島のすぐ東側に位置し、択捉島、色丹島、歯舞群島とともに、日本固有の領土でありながら現在はロシアによって法的根拠なく占拠されている島を何というか。（2019年 岡山公立入試 類似）

1. 国後島 2. 択捉島 3. 色丹島 4. 歯舞群島

問7 北海道の気候を地域ごとに比較したとき、日本海側の地域と比較した「内陸部」の特徴として、最も適切な説明はどれですか。（2019年 富山県公立入試 類似）

1. 冬の北西の季節風が山地で遮られるため、日本海側よりも冬の降水（降雪）量が少ない。 2. 暖流の影響を直接受けるため、日本海側の沿岸部よりも冬の気温が高い。 3. 梅雨の時期に湿った空気の影響を強く受けるため、日本海側よりも6月の降水量が多い。 4. 夏に太平洋側から吹き込む冷たく湿った気流の影響で、日本海側よりも夏に晴天の日が少ない。

問8 北海道の道東、太平洋沿岸に位置する釧路市周辺の夏季の気候について、気温が上がりにくい理由を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2021年 宮城県公立入試 類似）

1. 南東から吹く湿った季節風が、寒流である親潮の影響を受けて冷やされ、霧が発生して日照を遮るため。 2. 北西から吹く乾いた季節風が、大雪山系を越える際にフェーン現象を引き起こし、雲を消し去ってしまうため。 3. オホーツク海高気圧から吹き出す冷たい風が、山地にぶつかることで上昇気流となり、内陸部に大量の降雨をもたらすため。 4. 周囲を高い山々に囲まれた盆地特有の地形により、夜間に冷え込んだ空気が日中も地表付近に滞留し続けるため。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 商業やサービス業を主体とする第三次産業	北海道は大規模な農業が盛んなイメージがありますが、実際の就業者数の構成比を見ると、他の都府県と同様に商業や観光業、サービス業などの第三次産業に従事する人の割合が最も高くなっています。特に道東や道南などの地域においても、豊かな自然資源を活かした観光業や、地域住民の生活を支えるサービス業が産業の主力的存在となっているため、広い範囲でこの割合が高くなっています。
問2	答え 1 明治時代以降の開拓により一区画の農地が広く設定されたため、大型機械による効率的な生産が進んだ	北海道は広大な平野や台地が広がっており、明治時代の開拓使などによる開発によって、当初から一戸あたりの耕地面積が大きく設定されました。このため、都府県のように限られた土地に労働力を大量投入する形態ではなく、大型の農業機械を導入して一人あたりの作業面積を広げることで、高い生産性を実現する経営が行われています。
問3	答え 3 自然景観を活かした観光業や地域のサービス業が発達しているため、多くの市町村で第三次産業の就業者が高い割合を占めている。	現代の日本の産業構造では全国的に第三次産業の割合が高いですが、北海道においてもその傾向は顕著です。広大な土地を利用した農業が盛んな道東地域や、歴史的景観や温泉資源を持つ道南地域などでは、観光客向けのサービス業や小売業が地域経済を支える重要な基盤となっています。そのため、都市部以外の市町村であっても、統計上は第三次産業の就業者割合が高い水準で維持されています。
問4	答え 1 北海道	我が国で最も広い面積を持つこの地域では、その広大な平野を活用して、1戸あたりの経営規模が大きい大規模な農業が行われています。特に水稻の作付面積は全国的にも非常に大きく、石狩平野などを中心に生産が盛んです。
問5	答え 1 飲用牛乳は加工品に比べて製品の鮮度を保つことが重視されるため、大消費地に近接した地域で生産されている。	生乳の生産と流通には、製品の性質に応じた明確な特徴がある。牛乳（飲用）は液体であり、品質を維持するために鮮度が極めて重要視される。そのため、輸送時間を短縮できる大消費地の近郊で生産・処理される傾向が強い。一方、バターやチーズなどの原料となる加工用生乳は、広大な土地を持つ北海道が生産の約9割を占めている。加工品は飲用牛乳に比べて保存性が高く、遠方からの輸送にも適しているため、土地条件の有利な北海道での大規模生産が可能となっている。
問6	答え 1 国後島	国後島は、北海道の知床半島の東側に位置する島です。択捉島、色丹島、歯舞群島と合わせて北方領土と呼ばれます。北方領土の中で択捉島に次いで2番目に大きな面積を持ち、根室半島の先に位置する歯舞群島や色丹島などとともに、一度も外国の領土になったことがない日本固有の領土ですが、第二次世界大戦の終結直後に当時のソ連によって占拠されました。
問7	答え 1 冬の北西の季節風が山地で遮られるため、日本海側よりも冬の降水（降雪）量が少ない。	北海道の日本海側は冬の季節風の影響で雪が多くなりますが、内陸部は山地によってその湿った空気が遮られるため、雪や雨の量が抑えられます。一方で、内陸部は地表の熱が逃げやすい盆地構造を持つ場所が多く、冬の寒冷な気候は沿岸部よりもいっそう厳しくなるといった対照的な特徴を持っています。
問8	答え 1 南東から吹く湿った季節風が、寒流である親潮の影響を受けて冷やされ、霧が発生して日照を遮るため。	釧路市周辺を含む北海道東部の太平洋沿岸では、夏に南東から湿った季節風が吹きます。この風が、千島列島から南下してくる冷たい海流（寒流）である親潮の上を通る際に急激に冷やされ、濃い海霧が発生します。この霧が広範囲を覆って太陽の光を遮るため、夏でも気温が上がりにくいという気候特性が見られます。